

第二の人生は第二の人生の賜物です

年 の終わりです。昔やったら掛け取り言うて、商人は走り回るころです。師走というのは、師匠さえも走る季節です。

僕は師走ばかりでなく、講演で毎月走っています。それがエネルギーになってます。

講演をやりながら世間を見てると、いろんなことがようわかります。

今、暖簾のれんあるような老舗しにせの企業は、あまり勢いがありませんなあ。カタカナの名前のついている企業によく呼ばれます。

伸びる産業伸びない産業と、よく話題になりますが、日本の人口減ってるから、ただでさえ、敬遠されがちな中小の製造業にはなかなか人が集まりません。労働集約型の企業は、日本から、もう、のうなるのと違いますか。

そんなこと考えつつ全国を回ってたら、サラリーマンの定年を、とつくと越えた年になりました。

ここで新しいことに挑戦しようと考えてます。前に書いたように、長年の趣味ゴルフに加えて、水彩画を習おうと思っ
ます。

社長を退いてから、会長になって講演三昧の日々でしたが、講演会では、みなさんの顔を伺って話を組み立てたり、講演の後の握手会での反応をみたり、人と接触する力を磨いてきたつ

もりです。おかげさんで、いろんな人と知り合いになりました。

水彩画では、モノを観る力を養えたらと思っ
ています。

**定年までの経験を生かして
その後を豊かにしている人がいます**

さて、定年という話がでしたが、僕の知り合いには、定年までの経験を生かして、その後を豊かにしている人が、何人もいます。

例えば、南山誠林さんです。南山さんは姓名画数研究家という肩書きを持っています。

元々は、経営コンサルタントでモノづくりをはじめとするいろいろな企業を見てきた人です。そんな中で、出会った人の名前をデー

タベースに入れて、分類して、その人の性格



●日経ビジネス 2016年 5月6日号で紹介された南山誠林さんの姓名判断と青木会長



●(株)アオキ取締役会長
青木 豊彦 (あおき・とよひこ)



1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし、人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。現在は(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。

や人との相性を割り出していく、という科学的な姓名画数研究家なんです。

僕は新しく出会った人、これから付き合う人なんか、よう名前を見てもらいます。思いついたら夜中でも「この人どうですかいな。今日、紹介された人ですけど」なんて電話して、お世話になってます。

この頃、南山さんは商工会議所なんか呼ばれてるそうです。何を頼まれるかというと、婚活相談です。今、商工会議所でもそんなことやるんですなあ。それで婚活の割合を上げてくれと、頼まれてるそうです。

南山さんは、事前に、みなの名前を聞いて画数を調べて、この人とこの人はうまくいきますよ、と助言するそうです。そうしたら、それまで成功の確率がせいぜい一〇%程度だったのが、三〇%ぐらいになったそうです。

**ただ趣味を生かしてなんていうのは
むずかしいもんです**

もうひとり紹介したい人に、小川順子さんという人がいます。大手企業を卒業して二、三年ですが、高校の講師をしてました。教えてたのはマナーで、それが重宝されました。

今は別に近鉄・上本町の側の有名進学校で国語を教えているそうですわ。講演でも引っぱりだこです。OB会でうらやましがられるそうです。

大手企業では、企画を担当していました。そんな企画力と、それを取り仕切る責任者と組んで事業を行なう経験を、積んで

きました。それで身についたマナーや上司を見る目を題材に、講演することが多いそうです。

どうです?南山さんも小川さんも、まったく違う方向へ船出したんやなくて、第二の人生は、着実に第一の人生を歩んだ賜物です。

サラリーマンが、定年後に突然にうどん屋、東京は蕎麦屋ですか?になつたりしても、付け焼き刃ではいけません。もつとも、その人が定年まで、うどん屋の準備をしていたら、別ですが、ただ趣味を生かしてなんていうのは、むずかしいもんです。

そんなことするより、今までの自分の経験をどう生かし伸ばして、第二の人生を、豊かなものにする考えの方が、ずっと楽しくいうまくいきたいと思いますけど、どないでしょう。

「青木さんは、昔ようしゃべらんかった、て言うてましたやないですか。あれウソですか。しゃべくりを、第二の人生にしますやないですか」って、また東京のおっちゃんがあつたんです。できました。

何言うてますねん。しゃべくりは、本性やなく、人工衛星「まいど1号」を打ち上げるとき、まとめ役として働いてつかみ取ったものなんです。元々僕はようしゃべらんのです。そやから講演終えると、神経が疲れて大変なんです。

「そうか、そうかもしれないですね。講演の後、よくグダグダになってますもんね。係のお姉さん捕まえて、年いくつになったなんて軽口たたいて、響(ひび)かっただことありましたなあ」

シッ!余計なこと言わんの、年の終わりぐらいいおだててくれてもええのに。まったく……。